

令和6年 10月

■一般文学

「しろがねの葉」

・著:千早 茜

・出版者:新潮社

戦国末期、貧しさから故郷を逃げ出した一家は離散し、幼いウメのみが銀の採掘にわく石見(いわみ)にたどりつく。ウメは天才山師に見いだされ、夜目が効き、鉱脈を見つけ出す特殊な能力を持つようになり坑道で働きはじめる。しかし、羨望、嫉妬と女性差別が彼女の望みを阻む。死ととなり合わせの銀山にとりつかれた男たちを淡々と見つめながらも、自身の情熱を内にしまい、したたかに生き抜いていく。

残念ながら最もがっかりする世界遺産のひとつと言われている石見銀山。山中のところどころにぽっかりと口をあけた間歩(坑道跡)、深く掘り進められ湿気を帯びた手掘りの坑道、埃が通り抜ける赤茶けた屋根の集落、温泉津(ゆのつ)のうらぶれた港町とひなびた温泉街の風景も、物語を読めば当時の繁栄ぶりが色鮮やかに浮かび上がってきます。石見を訪れる前に読んでおきたい直木賞受賞小説です。

(対象 一般)

■一般書

「温かいテクノロジー ～AIの見え方が変わる 人類のこれからが知れる 22世紀への知的冒険～」

・著:林 要

・出版者:ライツ社

懐いた人のもとにいき、両手をめいっぱい上げて全力でだっこをせがむ。世界初の家族型ロボット「LOVOT(らぼっと)」は、生産性や利便性の向上などはよそに、ただ人のそばにいて、時に鼻歌を歌い、時にうたた寝をする異色のロボットだ。生みの親の著者が目指したのは、人類に寄り添うパートナー。テクノロジーで人が本来持っている力を引き出し、人間の生産性を上げる!? という発想は、長年ロボット開発に携わってきた著者ならでは。その開発に最も必要なことは、「人間」を知ることだったという。近い将来、人類とAIが共存する温かい世界が訪れるかもしれない。

(対象 一般)

■児童書

「おもしろすぎる山図鑑」

・著:ひげ隊長

・出版者:主婦の友社

日本全国でいくつの山があるか知ってる? なんと1万以上あるんだって。日本で一番高い山はみんなも知っている富士山(3776m)だけど、一番低い山は? 雲を見れば山の天気がわかる? ブロックン現象って何? 山で叫ぶ「ヤッホー」は妖怪からの返事?

この本は山で出会う植物や動物、気象や天体、登山のノウハウなど山に関する情報がいっぱい。ところどころに山のトリビアもふんだんにちりばめられているよ。

さらに、山で雷にあったら。山で道に迷ったら。山でクマに出会ったらなど山で危険なことにあったときに、どうしたらいいかについてもしっかりと学ぶことができます。

山の国、岐阜県に住んでいても山のことで知らないことばかり。

この本を読めば、山に行きたくなること間違いなしの一冊です。

(対象 小学中学年から)

■絵本

「せかいでさいしょにズボンをはいた女の子」

・作:キース・ネグレー

・訳:石井 睦美

・出版者:光村教育図書

女の子がズボンをはくってどう思う? 「そんなのふつうじゃん!」って思いますよね。

今から 150 年くらいまえ、女の子がズボンをはくことはゆるされませんでした。女の子がきるのはドレスだけ。きゅうくつでいきをするのもらくじゃない。それがあたりまえで、だれもおかしいなんて思っていませんでした。

でもメアリーはちがいました。ズボンをはいて町へでかけるとみんなおおさわぎ。

「わたしはわたしのふくをきているの!」

「おかしいな」と思って道を切りらいてきた、勇気ある女の子のおはなしをよんでみませんか?

(対象 低学年から)